HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第3巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77410
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。職域集団、生活拡充集団、政治的組織、血縁近隣関係友人学友の関係
File Information	N003_01S28.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

コーアのKノート

N5A

NOTE BOOK

都市社會學

二十八年度

特殊講義案

第三卷

本ノートの内容

第二節 職域集団
第五節 生活協同集団
第六節 政治的組織
第七節 血縁 近隣 同僚 友人 学友の宗教的
同仏

人の死亡的成長の段階として幼稚園、学校
学と後とは別の段階にあるし、学の段階
の内でも世帯内に属する時代と其の街
路に交友を始める頃となった後とでは又別な
の段階をなして居る。
就学と共に子供の生活圏は俄かに拡大
する。都市では色々の職業や階層の人
々の子弟が同一の学級内に集まり来れば
子供達はそれ等の差別なく相互に交友
する。そして同一の学級内から僅かの二三人の
親しい友人を作る。都市の人口流動は
学級内に影響する為であるから小学校

の六年間に移殖して来た者共の表は相
当に多くの職業の交通も亦激しい。其
の子情は決して小さい調査の結果にも明
かである。之れ等の活動が都市の思想
と人格を分つ所以である同様である
。

吾々は子供の生活圏を形成するものであ
る。子供を通じて父兄の間に共同生活をそ
ますます。例に新しい子供等の父兄や母
姉の間は親しい交友の間柄が生じ易い。
然し凡て吾々が都市に於ける社会生活に
どんな働きを持つ所かを明らかにする

の一つの手段として
作業、卒業生に彼等の同伴がどの位長くそ
どんな形で存続するかを知ることによって明らかに
なるであろう。すべてのこの事。次の新学期を一体
つまり。
次に中学校はわれわれと大体手続に同様であり
また、高等学校やたかは自分で出来ている。
既に述べたようなこれらの高等の学校も
学校の教育は職場に行くための準備行程を
はたしてないとしても、ずいぶん重大にかつ考えた
と考えは卒業して重大に同伴する職場へ入り
それが文学に同伴する職場へつづくように見つなへ
ていろう。文学を専攻した者は文学に同伴

ある業務の職場をねらであらう。彼が医学に
関係する職場につくのは全然あり得ない。ずゝ
ぶん
相当の学者はたしかに職業に就く準備
的行程をなしてゐる。行政の改変と社会環境も
学徒は心と職業の対象と含む思うようはない。
一つは命令による部隊であり一つは自由に評
学問をもつては甚だしく拘束する。
若しそこの方面の関係の行政家が絶対と
なるならば同様である。一つは出産を法で
保障する法であるとも学徒的立場からも
この保障法は一の投資であるとも学徒的
である。何れにしても学徒は職場を法に常に

先行したところの工事を活ている。例して
工事費はいずれも都市を活用を指成した。
免費を一番まとして考慮するは当然。
学校を活用する施設は、それが甚だしく卑近
なる概念であるが、心正しい大量的傾向は見逃されし
ない。教育者のそれの研究にまつべきこと
項が甚だ多い。都市改造学は全かり格の
研究資料を拡げねばならぬ。

回かくのごとく家族が生業に於いても協力的な一団体を形成し、家族の生活の場所であり家族生業の場とすると共に、恐らく永い多の人々の生活様式であったのであらう。その場合その共同生業の場が同時に家族の生活の場であり、その一団が常に共同の場を持ち共に共同で生活するのであったであらう。

私は今人類の生活文化史の長いペーケを回想してやうとするのではなくしのであ

第二節　職域集団

一家族全員が協力して農業を営む農家は家族が職域集団を成している。都市の小商工業者の中にも家族丈で協力して商業又は工業を営んでいる場合がよくある。そうした家族が職域集団をなしている場合である。回こんな家族職域集団に私旅のしの中一人来ている場合もよくあるであらう。明らかに庭師契約によって雇人の小工者を一人かへている場合もある。二人かはり三人かはり業は盛大になって来たが、やはり家族経営業が中心となっている

るけれども、人はそんなに活を永いつづけて来られず、甚だしい過去から幾かんかくのめまぐるしい様式を変じて、共同生活をする家族内で共同の生業に協力することをしなくなった。故に私は甚だしい過去からのこの形らしい生活様式を同胞にすすめ同志しいその少しずつの時代を考慮に入れ考へて居ります。それはこの少しずつの時代は甚だしい過去の時代に甚だしいものであります。

家族員の生業協力統一から漸次一人一人が此一国より脱出して他の生業企業に移行するにつれ生業が多分的に人々によってその範域を異にするに伴ひ過去及び家族が家族員の共同生業の場であることを新変して各家族員は別々の職場で働くに過ぎを考へなければならぬ。

此無しまでであろう。従業員が益々多くなるにつれ家族従業員は大部分その場を去り一人の家族の者のみその業務に従事き出

し他は遠く居住者により営まれる場合しまであろう。

家族の住居と事業所との関係は

家族の住居がそのまゝ事業所として用ひられ、やゝ発展して住居する土地の一部に事業所を設ける場合、最初は家族の住居と事業所とは全く関係なく遠くはなれ

協合を考へることが出来る。

右の様なる階を経過して家族と事

下の五種を要約して

一、家族職域團体（中央工業、生産活動に家族的共同組織を含む）

二、小企業團体（産業組合法による中央の使用人をかかへる中の一定の人数を使用する）

三、大規模團体（他人との企業をもつて五人以上の雇傭した他人をもつての使用人総合数）

業体その團体は次の四種に区別する。

一、家族協同体（活動を法人として家族のみを含まない。）

二、家族職業集團に中数の近親者をかへた場合

三、家族職業集團に産業組合法による中数の使用人をかへた場合

四、家族從業員の大部分が出て多数の使用人をかへた場合

五、家族を全く離脱し他人をもつての企業をなし使用人を雇傭する場合

種がある。

一、家族の住居がそのまゝ事務所で
あるもの
二、居住部分の一部を事務所とするもの
三、住居と事務所とを全く別個に
したもの

今日では使用人を有する事務所は殆
ど係監督官の監督下にあり。監督官
署の調査は市の内外を問はずとなしのつ
が常市内の事務所については大体知ることが
出来る。

昭和二十五年度、口頭調査を行ひ
有業者の就業の地位に関する調査は

この図の通りであります。今その中
から北海道内の市と町と村の名をよ
一をとり元比較を試みれば次の通りである

	札幌市	当別町	新篠津村
地位別			
雇用者の職員	3.4	1.1	0.9
単独業主	11.6	24.4	20.3
家族従業者	8.3	55.8	67.0
つとめ人世帯 一般雇用者	54.4	13.5	7.2
日々の雇用者	9.6	1.7	0.8
地方の雇用者	8.9	3.1	3.9
住駐軍雇用者	2.3	0.03	
75.2		18.33	11.9
未就業者	1.6	0.1	
計	100	100	100

54.4
9.6
8.9
2.3
75.2

13.5
1.7
3.1
0.03
18.33

7.2
0.8
3.9
11.9

これらよりは次の様な傾向が看取される

第一、農用者の数が都市に、町より市に漸次増加して行くこと

第二、家族従業者は都市、町より市に於て減じて行くこと

第三、一般農用者は町より市に於ても増加して行くこと

札幌では一般有業者の中54.4%が農用者であり、3.4%が農用者を兼ねます。口の農用者

九六%、地方の農用者八、九%は駐屯農用者 二、三%合計 七五、二%が

近郊

残域集団に所属して居る。この一すじを見ても

集団が異質化する
ような傾向の
勃興年代の
ていた住民
都市が家族をはなれた職域に於いて営
んでいるのである。市民の過半数がかくの
如き職域に働く人(或いは家族)である。市民の
活動は殆んどかくの如き職域集団の活動が
支配している。

本来職域集団に於いては多くは企業主
が利潤追求の目的のために業務運営を協力
せしめるために一定の契約をもとづいて雇用した
人々を形づくっている集団である。多くの雇
用者は本来企業主になるべきものであるが
つながる集団である。企業主は雇用者等
よりも出来るだけ多く搾取しようとする多くの利

⑥へ

団をあげんとするものと考へられる。又農団員は
出来る丈少い労務の提供に対して出来る丈多くの
賃銀をねらうを念願して居ると考へられる。
打算的に自己の為に働きはじめて居る人々の集まりであります。けれども
そこには業務運営における協力の中堅の為の
従業員等の
組織は当然有れなければならぬ。仍ての企業
企業主及び
係員における従業員等の構成する最小限度の中堅
の協力の組織はかくのごとき業務運営における協力
の組織である。かくのごとき組織に依りてそこには集
団が形成されて来る相違ない。多くの企業体に
形成された所の集団はかくのごとき集団丈であらう
か。
五人が識字した若干の企業体に関する調査に

よれば、個々の企業体には多くの集団が生ま
れ蓄積しつゝある。本来ゲゼルシャフト的だったすべて
企業体の内部に又は企業体の基盤の上に
ゲマインシャフト的な集団すら数多く形成されて
ゆく。企業体の組織が大なる程かくのごき集団
の活動も著しく組織し整備されて行く傾向
がある。従って企業体の内にはかくのごき集団の組
織が整備されて行く場合が多いが、そこには
封建的上下の関係や愛情により結合
された代って行く傾向がある。
大企業体の内部に形成された相互扶助の組
織や慣行は強力なる必然性をもって存続
慣行を思はしめるものがある。

去る
協同組合の組織（農業、信用、販売）社会福
祉事業、相互保険制度、娯楽、教育、衛生
等に関する組織又は集団的活動をかゝふる。
これら種々の集団が全国に形成されて居る。
翼賛壮年団、職域集団とゐはかくのごとく一企業体
の基盤の上に労務の仲間の為に生じたる集団
はそれより更に他全国に形成されてゐる様々の集団の
一つの系統組織として
組織されつゝある。
企業体本来の組織から考へれば従業員と
企業主との関係は封建的結合の外に従業員
相互の業務遂行上の作業的協力が予想され
ようてまかる実職域集団には太のごく

多数の集団が累積してゆくに従って相互の
間には接触の機会多く
密な結合が生じて居る。大なる職域
社会に於ては相互間識の圏、道徳社会の範
域は自ら限定されて来て一部分に(一部分の利害関係)
共同生活
長期に亘り
交渉する社会過程も自からその間に生じて居る。
之は注意すべきである。之には社会的拘束の
効が自から形成されると思はるるものである。
之実多くの職域に於ては長期勤続
を奨励し多数である。未だ相互に自由
な立場で契約されたものとして扱
される経済学は之の欲するところの経済学

回答者は職業に従かくの如き同類の職場が数多く存在する。

の職場をその職場に移動し少しでも有利なる職場を求めて移動しようとつ等である。

自治を妨げ合理化政策をなむ現代都市住民の一般的性格が云つて云はれる。

事である。一方所に留まり志向孤立する人々が固定した色々の集団が出来れば出来る。

又集団の社会的圧力が個人の自由を拘束して来る。それぞれの集団の一つから離脱して早く解放されたいと思ひ乍ら出来ないのが現代人の無力感ではないのか。

然し個人の職域社会に於ては経営者の職員の大多数は固定して居る。二十年以上の勤続

自然村の相違は
その職業及び土地
変更の結果と此
なる職の移動の
場、此なる職の
体系的全部的内容
と均等力。
村八分

者は珍しくはない。次の表は私儀市
場商は製麻屋元の従業員について調査した
ものである。（第何表）ここにはみな従業員が手数
料を貰ってゐるが、男も従業員（又
は）とつゝと見れば更に
出割に至って勤続が多い。
勤続年数が長いということは、その能率らしい
であらうと共に、実上の同僚として唯一つの職場
ではなく他の職場に移ることは容易ではない
ことを意味してゐる。色々の事情からも
のと思はれるが結果は私は容易でないのである。
故に相当に固定が手助者に不利が多くを
記せる職場は容易には出来ない。

多数の集団がそこに形成されてゆく

職場は同僚の間が第一次的接触は固定
して発展してゆく。そこに社会意識の均質化
が強く働くのは当然です。社会意識の方
向とそうして工場全周囲の同僚の激変や
異性はやがてその職場への適応を意味
する。であらうけれども
他の職場に移るのは容易でない。
身動きする人々は方向を試行錯誤したへてゆく
人々です。すまでさしあたりは
職場勤務の苦しさを物語ってゆく。
近代都市における社会移動は一時的一面的
個人的と考へられる節接的秩序奪放不
能の都会人が考へられかねつつあるが、それは
都市の街頭における人々の関係に過ぎない。

弱さ、ぼくの
大都市
近代人
都市人は職場を離れると、
は孤立した個体である。個体は常に
人とよき隣人となると共に道義の
冷厳な監視を受ける。近代大都市
は
それ
この道義の行動圏からはみ出
自覚的の外的刺戟が強い得
ない。
近代の都会人は一方に家族の
集団を捨てられ
近隣集団を失い古い村落的代償を失った
道義
義の
道義を失ったが、その代償として
僅かに
好ましい職場集団であるとも云へる。
ただの職
ただのか
都市は厚い
この御弦んだ混乱によって

代表せしめられたれども、政治部分が
もっぱら職場における秩序と平静を見出
すものではない。

次に職域集団の考察は職域集団の
持つ次の性格を忘れてはならぬ。実に凡
つゆく職場集団を繋ぐ労働者階級の中
に根ざしている此集団の一員である。
職場集団に見られる社会階層は職階
制に於いても所得に於いても恐らく生活水準
に於いても多多ッ下位階層をなして
居る筈である。けれども今後に於ける職域
集団は完全に二つの陣営に分れて居る。

※
階級とは
職階
階層的上下の二陣営に分れて
全職域集団が半ば対立する場合
所属が
戦争的
我々意識によって決定された二つの集団である。

一方は企業主を中心とする資本家側の
陣営であり、他は階級的闘士を中心とした
労働者の陣営である。
階級的同じとは後者なら誰への理解
陣営的
があるが、金の人々ところは、※階級的
戦争意識の高揚である。対立戦争のないと
ころに階級はない。又階層のうち対立
ところに階級はない。階級は戦争と階
と二つの上下集団である。階級は明か
に集団である。階級に身分や成層
混同するべきではない。今は階級とは近代
都市と共に発生した職域社会に出した

◎労働組合法によれば、労働組合の
協約法定家族に属する労働者を対象
とし、かつ、仕事の性質によって、職場
は第一から異っている。今其一例として、市
役所職員組合の例を示せば次の通りである。

法定家族に属するもの
人事課長、工務課長、財政課長、市長秘書
課長、公営企業課長、及び一部の係長（庶務係長、
財務係長、管財係長）

なお課長
等を組合との交渉に当る者として行政上の
を部内とし、もし其の一部に外部者を含む場合は
係長をかへる。

たの如き計画的二国体のみを意味する。

◎職域集団は又如何に美はしい意義
の自治団を其の内に含んで居やうとも、常
利的な経済的生産体の労働組織であり、
生産をはじめ、多く労働者を搾取
することによって剰余の拡大を企図し
従業者中の隔絶的同士は機会毎に（その
隔絶強化）
隔絶の弱化を計って居る。職域集団の
内部の労働運動の実践に無関心かつ
予期出来ない。企業者の飽くなき欲
利潤の追及はかくのごとき機会を反覆
（終には革命に至るまで）

第御社会の形態に関し詳記の必要あり。

第四部
第御社会本部

追記

同業社会、都市市民団の一型も職域社会として考察すべきか

すなわち、又大統化した階級社会は
まはあゆる機会を階級社会に新聞
んとすることである。
かくて職域集団は常に爆発をもち
続けるとみる。然し平常に於ける職
域集団は平穏と秩序の内に都市の
混乱を守っている。
従来都市社会学に於ては、集団果務体としての
職域集団に関する考察を欠いでいる。近代都市
に於ける職業の多様化の傾向や各種職業の割合
の比率の相異などが問題とされていない。又
学校学会に於ては主として教育能率化のために業務
遂行機関としての職域が問題とされている。

第五節　生活拡充集団

余がこゝに生活拡充集団と名づけて居る一群の集団は其措置に於いて極純に於いて目的に於いて千種万様である。曾て明治年代以降農村に於ける各種の結社が一様に講中と呼ばれ其中に各種各様の地集団が含まれて居たと同様に今余の所謂生活拡充集団と多種多様の少なる都市に見られる一群の集団を含む性質を持って居る。然し凡そ生活拡充集団には場合一様に共通の性格を有して居る。即ち生活拡充集団は生活部分が吾人の所謂正常生活の余暇に見られるものである。其

意味において人会服集団と名づけ得るものである。とまれ子は此生活拡充集団はその活動が何であろうとも又その成員が如何なる沿革を経て来たかを問はず、正常生活を保持しつゝ活動しつゝあるものとし、正常生活の余力によって営まれるものである。生活拡充集団に属する人は皆それぞれの職場か学校における日々の正常の活動をもって居る。

只その清水近代化する世界の名称は、例へば、クラブ、団体、社会の名によって呼ばれて来たと同様に生活拡充集団も幾つの名称を持って居る。その定会、同好会、学会、清習会、協会、研究会等と呼ばれてある。一般に文化団

※其他の同業団体も企業者の企業活動の為の結社であるから企業者の労働者と見なすべきである。ドイツのカルテルは中世ドイツのギルドに比すべく社会的に全く考へられてゐる。

親交団体、交団体、作業団体、リクリエーション団体などと呼ばれて居るものは皆これに属する。この種の集団で団体と呼ばれて居るものもあるが、労働団体は職域社会に密接に関係する集団の一つとして取扱つて差支ない様である。又中小企業者協同組合法による組合は中小企業者の活動の一方面として職域社会に属すると思はる。※

ギルドの方面と金融集団は吾人の所謂生活拡充集団を意味すると思はれるが、この金融集団について後は次の項に於て述べる。

「都市は自然的なクラブ又は結社の網

の目的に基づいて居ります。それ等の
クラブや団体は本来その成員達の余暇に
於ける仲間作りを目的として結成されて
居ります。勿論これらの社交クラブ改善や
福利のためのクラブ、スポーツのクラブ、
学問的研究サークル、文芸倶楽部
のかんな会、倶楽部、その他の形式的
な団体があります。クラブの或るものは
他方的組織であり、あるものは公的或
又は半官的組織として居るもの
は特定の氏族、性、年齢、家柄
職業の人々に限定されて居ります。又成員

にたるように云ふ人々多数居るのである。
これらのクラブの幹部は純純の国人で
やはり彼の攻撃的性格に感じて居るのである。
キャンサスのローレンスと云ふ都会には百
以上の各種国体があるそうだ。リンドは
一九二四年にエドムンドンに四五八の活動
したクラブを発見した。これは八〇人に
対して一つの割合である。P.502 二枚

金口各都市の市勢要覧には此税の
集め国に国家調査の結果を発表された
所。それ以外との税務所実施の事
情は一体どうなるか、大体の事

R69

知っては上等。今年五月末二五の部
市の市勢要覧によれば
市内に全部集団は家外の数の約
五。そこに多分の八十人に一集団の割合
なっ又住ふのくらしなし
人口弱五万の
滋賀多市 彦根市には文化団体として
三十一団体をあげ文化活動やりクリエーションの
団体については詳記されていない。同市の社
会教育が団体として「40」の地域青年
団、83の婦人団体、14のPTA、25の地域
文化団体、22の地域児童団体、6の家族団体、
41の神社教会、105の寺院教会、28以上の趣
味団体、22の体育団体、40の芸術団体、
R69

青年団、婦人会、PTA

をあげている。右の団体の他に、釧路市のそく他の活動団体は皆、釧路市の青年団、婦人会、活発な活動団体であります。右の青年団、婦人会、PTAは皆、釧路地区単位団体であります。皆御存じの職域団体であります。皆御存じの職域団体であります。

今申した通りであります。

人口約七万の釧路市では文化団体、レクリエーション団体、そして四十をあげられる。ここに皆御存じの通り約三十があげられる。恐らくそれぞれの職域団体もそれぞれ相当数の釧路市の人口約十万の地域、釧路市では文化団体二十九、体育

△安井君の岩見沢における青年層の調査の中には「冬季、月謝、謝礼等を支辨する集団」と支辨しない集団についての調査もあり。殆んどの段階の集団がなすべきであらう。（生活拡充集団には

団体十六を数へてゐる。
人口五万の北海道帯広市では文化団体四十六、体育団体十三、婦人団体五、学校団体十五、青年団二十九をあげてゐる。
各都市によつて調査の基準が一様でないから、その調査の結果は全く信頼するわけにはゆかない。私達はこゝでも直接に社会生活的調査をする必要があると思ふ。私達は一都市内の生活拡充集団を見ようとするものゝ、全部を知り得ない。△目的についても文化体育レクリエーションの外に五、六、三つの極に相当するなく正常な活の余力によつて構成

※
就合集散の多い近代都市には各地方の
人が集まって居る。多人数や出身学校同
窓会などが比較的盛大で手っ取ばやく
後援的勢力が出来るのを為であろう。

して居る。集団ならば何なる種目的の為の集
団も含まれて居る。Bund, Verein, Lindemann が
示して居る都市の住民加入集団の分
類を見ると我が国の都市にも殆んど
色々の目的の集団がある様に思う。
アンケートサンプルは同窓会や秘密結社と
あげて居る。一時その名をよく聞いた蘇峰
会の如きもあるがあれは乳母会は今しな
おっていると思う。※
知恵や組織についても悪なの情中と同
じく様々の所説があるであろう。ほんの一時的
の私人の集団しかり、何世代にも亘るもの

もあるかも知れぬ。然るに役員のあるものは
出来ないものもあるであろう。それを（一部市に）
為すべく知るべき性質のものであるかも知れぬ。
然しその一つにつくを選定してそこでインテ
ンシブな調査を行い全市について批判する
ことも出来よう。かくして知られた弱点により
はかくのごとき生活指導機関はそれぞれ
多くの場合一のかも知れぬ。
都市の社会学的研究（実證的）を一日不可能と
思はしむる一つの理由はこの生活指
導機関が不私に対するであろうと思はれる
批判からである。そしてこれらの機関

中産階級の形態へ

は云はば都市の社会生活の花であつて、特殊的華麗な色彩は一定の美を以て都市生活を分析つゝ、ようを渇望するかの様である。又都市はこれ等の花を中心として形成されゝ何かの様式をはじめる。然しながらこれ丈では足りない我々は学ぶべき事が出来た。都市社会の基盤をなすものはもっと地道な組織的な世帯と職域であるのを学んだ。生活協同組合はこれ等の基盤は構造の上層に浮動する浮遊的存在に過ぎないのである。

追記

都市青年団の一型態として農村の一部も生活協同組合を中心とし青年団をすすめる。

玉谷君辛酸8P以下の調査
同報告には市街における左のような調査を含む。

一、よく往来する親人友人
一、よく往来する近隣
一、親人友人は何を接線として職か家事か教育か
一、親戚と他人とは何れを優先するか
一、市街の親戚
一、村の親戚

学生清水君の研究仕伝民の近隣。
市民の周囲 リポートに都市における家族集団
の性質 P.44 親戚同伴の周囲

大都市における近隣の一形態 北条泰治
十六巻一九五四 大橋薫 市民

（以下略）

（東京）

第六章 第三項二

第三章 第七節 血縁、近隣、同僚
友人、学友の定形的同伴

都市を構成する要素集団は世帯
職場、学校、地区集団、生活拡充
集団であるか、それらの集団に於ける
生活が集団となって生ずる同伴。
（式のように示されたものは同伴がもとになって成立する集団がまとまって成立）
かある。結合を生ずる原因又は契機を
縁と呼ぶならば、世帯から血縁、職場から
職縁、学校から同窓縁、地区集団
から地縁、生活拡充集団から趣味縁
が生じて来る。
（一般の同僚つまりそれぞれの縁にもとづく人は職縁、学校縁、地区縁、趣味縁、学友は学校縁、親友は親縁、親戚は血縁、隣人は地縁、趣味縁、学友、親戚、隣人、同僚、同伴）
人が親交を深めて行くに従って
同伴から知人同伴に進み、そこから友人関

成立

○一、親戚―血縁―世帯
二、同僚―職業―職域集団
三、学友―同窓―学校集団
四、隣人―地縁―地域集団
五、趣味の友―趣味―生活協力集団

元交際の好例

一、書籍
二、商売

○三、知人

四、友人

五、趣味友

六、不良

同好は決して親戚関係が薄い

東北の同行は勤務されている人

郷土の大部分は同僚で知人の同行

元々同行の型の種類の例

親戚の同行

親戚は一般に見落されがちである。

これらの親交の同行には皆それぞれの同強が同居されている。

例に至る。年齢が血縁同行及び場合もある。

これらの親交の同行には皆それぞれ、その人達のあかれている環境に応じて一定の型がある。即ち或る時代のある民族のある部落に於ける一般に友人と呼ばれる人々の間には、かくあるべきものと思考されている。

行動

同行の型がある。友達同志であるならば或る場合に一方がかつた場合他の方がなすべき義務がある。友達甲君のある人あるような人は他人によって異なるならば義務と呼ばれる義務

最も明瞭に他者と思はれる義務もある。その義務が明示され品格に命令

て不安なる気持のするところもあり
他人の判断にまかされてあるような気持
れを拘束しない場合もあり。やはり私はよく
御手紙にはいろいろのめを拘束の傾
いか、矢張り最とし難しては居る。二人の
友達同伴を迎新しく居る同国の色々の人々
は二人のその同伴を見思し少くとも最低
限の義務が出来ないすを期はい
居る。その期待が裏切られた場合同国の人
は出の書きに思うく迷惑の(微妙な)事情を
かへる。その(方法)を書きはよく同きとる(その)
あるる。それは年末の報告にて。千恵

万物の生活に於ける義理が発動する形は
極めて多く、なほ極めて道義の位置の発動
に対する評価は常に正しい結果を与へてくれ
る。

然し都市に於ては生活が解放されつゝある
財産の二人の友達の同位の内容を知る事は
人は甚だ少く又其現時の深さも浅い。故
に四国の物質も少く、必に親交の深さも
浅い。故に対する四国の同位に期待も少い。けれども
友なしとは言ひはない。

友達の一人が結婚を決定した場合、友人はど
んな援助、出方をするか。友人の和や兄弟

の死の場合はいかん。夫婦の場合はいかん。
葬式の場面にも現れる。
部落においては、職業や地位や年齢が
変化して行く個人を通して、その影響を受ける友達の国体
は固定するから困ります。
打算をはなれた純情な純粋な友達
相互に期待するのは部落民も同じ
同一ではあるが、何ずれ金銭の少なく
生活をして行く部落民は打算をはなれ
る余力なく、自分の純粋を兼ねる打算が多く
なるのです。かくて相互に打算を認め合い
つゝ純粋の部分を期待しているのが部落

※職場は彼の生活を支配し、絶えず思惟や行動の内容に及んでいる。職場は彼に色々の方向を指示し、彼をはその強制に服従せねばならぬ。そこにも内に安らなければならぬ。

彼の交友の深く広がれば、彼の人格が形成される。それが知人の交際である。

彼はまた職場において何人かの中程の友人をもつようになる。

の友人仲間である。相互に秘密を等色しつつ、協力をもって相互に自立自主を等色しつつ、協力せんとする。

彼は交友を通じて自己を発見する。

彼は職場において何の資格をかくしは異っている。

ながら協力しあうところに都市の友人の苦しさがある。

都市の職場は人と人の関係は相互に識るところの少い都市の（このはなはだ）

他人的一時的一面的である。

（関係で最も多く知人の関係は相互に）

かえれば他人的、一時代的一面的である。

大多数の同僚の相互の

多くの同窓者の間の関係かえれば（ここが弱い）

それは友人の関係と他人的一時代的

全面的となる。姻戚や血族の関係から

都市　農村

○
第一　未知（面識）
第二　知人
第三　友人
第四　血縁

○
第一　知人
第二　友人
第三　血縁

知人以上の関係は都市農村共通であるが、都市には未知と面識の関係は
かつ、その差はある。量に於てそれ
は前より多い。
都市では未知が大部分である。

はじめて集団的永続的全面関係と
なる。農村に於ては知人の関係なれ
ども集団的永続的全面的である（面識関係は永続化せず）。
農村では殆人は皆知人同士である。
その関係の固定化の第一段階は（永続化）
知人関係であるが、都市に於ては面識
関係は知人関係として発生するか、それは血縁
地同じである。職場、学校、地区、
生活、接触集団、その他の未知の知人
との間に接触及び発展の機会を与へ
知人関係を生ぜしめるのである。
中間には未知は遠い血縁の者を血縁的
集団未知未知なる知れたる知人の関係

作ったりすることもあります。
しかし、都市を形成する各種集
団が、何か小知人同行を発生させる
要件を作ることを認めるのでなければ、何れ
の集団より最も多く知人の同行を
するかは定め難いのではないかと考
えれば、孤独の度を最も多くかつ
集団は何れの集団かをよく考え
それは何であるか、無し知人同行に
比べ浅い同行を多く作る集団も
同じであるが、友人や血縁まで発生せし
むる可能性を持つ集団は何かの同行

友人の社交段階

一、趣味の友　娯楽

一、教養の友　往来

一、婦人の友　代替保護人、子弟思慕

一、句作歴の友

はより重要である。死に至るまで、結は
同仕を続ける。代々集団は何か。
兄は二十才前後夢多き時代に過り
全く機会の多かった集団、若しくは
育ちの私の代同窓会ではないであ
らうか。

往年の先生
お祝ひ

最初に郵便局仲は何れの機関の
集団に同仕する所に同仕してあるか。
又は仲か如何に郵便局員したよはこの
同じく同じ一生の一致を誓ひ合ふ。
おくさんの仕事

(A地帯)

	有幅								堺				東雲					
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
現転業数	6	4	60	40	ナシ	12	7	21	22	20	14	22	4	7	17	30	26	10
転屋 (1)	事務	製板材工			石屋	洋服屋							仲立	雜貨商			日雇	
(2)																		
(3)																		
世代 現	消防夫	土場主	漆師	会社員	ナシ	会社員	洋服屋	会社員	料理屋	古物商	会社員	洋服屋	煙草屋	会社員	教員	会社員	煙草屋	会社員
の転業 1代前	土建業	農	〃	〃	石屋	洋服屋	土建業	木材業	〃	〃	小貸商	織物業	米屋	葉タバコ商	木材業	米屋	米屋	新聞屋
2代前	木材業	〃	〃	〃	靴業	雜貨屋	〃	農	〃	〃	農	〃	〃	不明	〃	〃	〃	不明
3代前	農	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	不明	不明	〃	〃	不明

(B地帯)

	南葛										山田							花園								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現転業数	5	26	32	36	6	17	20	4	15	7	28	47	26	ナシ	1	3	3	50	8	3	5	10	12	9	25	60
転屋 (1)					人夫	農		製菓							洋服屋	飲食店	雜貨屋		洋服店	官吏	官吏	雜品商		古物商		
(2)					沈夫	沈夫		会社員																菓子商		
(3)					漆夫			靴製造																		
世代 現	実務員	洗濯屋	質屋	青果商	工員	製造商	工員	移動屋	漆	会社員	銀行員	織物商	木工職	ナシ	筆商	店員	仲介商	警官	洋服屋	雜貨商	会社員	船員	菓子屋	洋服屋	建具屋	大工
の転業 1代前	公使	官吏	〃	〃	漆	農	漆	農	〃	本漆商	本材	〃	大工	自動車商	洋服屋	雜貨商	旅館業	〃	食堂	官吏	農	〃	〃	菓子商	〃	靴製造
2代前	漆	〃	〃	農	〃	〃	商	〃	農	〃	〃	〃	〃	不明	農	不明	不明	〃	不明	不明	〃	〃	〃	農	農	農
3代前	農	〃	〃	〃	〃	〃	農	〃	〃	農	〃	〃	〃	不明	〃	不明	不明	〃	不明	不明	不明	〃	〃	不明	〃	〃

(C地帯)

	奥沢																				公園			緑									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	10	14	15	16	17	18	19	20	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現転業数	ナシ	2	ナシ	30	6	10	23	1	4	3	10	25	6	ナシ	9	40	20	20	7	20	20	ナシ	15	18	12	7	21	20	16	5	20	1	25
転屋 (1)	会社員	公使	会社員			店員		大工			工員			仙夫	会社員			煙草屋	官吏			会社員	材木屋			軍特事				公使		官吏	
(2)																										日雇							
(3)																																	
世代 現	ナシ	会社員	ナシ	新聞屋	会社員	茶屋	洋服仕立	職工	家具転	花園	日雇	大工	ナシ	伊豆業	鉄道員	鉄道員	米屋	小売屋	馬車屋	会社員	ナシ	運輸業	官吏	会社員	消防夫	鉄道員	教員	日雇	公務員	官吏	会社員	靴屋
の転業 1代前	農	漆	漆職人	農	漆	農	農	漆	不明	家具転	農	農	仙夫	石屋	農	農	農	農	農	農	官吏	漆職人	漆	教員	漆	鉄道員	教員	〃	農	〃	土建業	農
2代前	〃	不明	不明	不明	〃	〃	〃	〃	不明	不明	〃	〃	漆	不明	農	〃	〃	〃	〃	〃	警官	官吏	不明	〃	〃	不明	不明	〃	不明	農	〃	〃	〃
3代前	〃	不明	不明	不明	〃	〃	〃	〃	不明	不明	〃	〃	〃	不明	〃	〃	〃	〃	〃	〃	不明	不明	不明	農	〃	不明	不明	〃	不明	〃	〃	〃	〃

質問 / 現転業数	転業年数							兼転業数				同転業分布		
	1~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	ナシ	0	1	2	3	前世代同転	世代外同転	現世代前世代同転
A 18	6	3	3	2	2	1	1	11	7			2	15	1
%	33.3	16.7	16.7	11.1	11.1	5.6	5.6	61.1	38.9			11.1	83.3	5.6
B 26	12	4	2	5	2		1	15	7	2	2	7	13	6
%	46.2	15.4	7.7	19.2	7.7		3.8	57.7	26.9	7.7	7.7	26.9	50	23.1
C 33	14	8	5	2			4	16	16	1		4	29	
%	42.4	24.2	15.2	6.1			12.1	48.5	48.5	3.03		12.1	87.9	

質問 / 現転業数	現転業年数							兼転業数				同転業分布		
	1~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	ナシ	0	1	2	3	前世代同転	世代外同転	現世代前世代同転
I 38	17	7	4	4	1	1	4	20	15	1	2	7	31	
II 39	15	8	6	5	3		2	22	15	2		6	26	7